

大規模な職域健康診断データを用いたやせ型若年女性の疾患発症リスクの検討

令和元年に行われた国民健康・栄養調査によると、肥満度 (BMI) が 18.5 未満の「やせ (低体重)」の割合は、20 歳代女性では全体の 20.7% を占めており、健康日本 21 の目標値である 20% を上回る結果となった。働く女性の健康増進について社会の関心が高まっている一方で、現状では若年女性の健康に着目した研究は少ない。そのような中、昨年世界で初めて、低体重女性群の耐糖能異常 (IGT) の有病率が標準体重女性群に比べて顕著に高いことが明らかとなり、「やせ」が若年女性の糖尿病発症リスクに関連する可能性が示唆された。この研究は、対象集団が小規模である等の課題が残ったものの、やせ型若年女性に対して生活習慣病への予防的取り組みの必要性を提起するものとなった。

そこで本研究では、やせ型若年女性の疾患発症リスクに焦点を当てる。大規模職域健診を受診した若年女性の健診結果を使用し、BMI により 3 つのカテゴリーに分類 (痩せ、標準、肥満) 後、カテゴリーごとの検査結果の傾向や他項目との相関を検討する。さらに、問診データとして収集した生活習慣との関連についても考察する。

使用するデータは公益財団法人パブリックヘルスリサーチセンターが保有する健診データである。2012 年度から 2021 年度に受診した若年女性 (20 歳から 49 歳) の延べ約 70 万人の健診結果を解析予定である。

参考文献

Sato M, Tamura Y, Nakagata T, et al. Prevalence and Features of Impaired Glucose Tolerance in Young Underweight Japanese Women. *The Journal of Clinical Endocrinology & Metabolism*. 2021;106:e2053-2062.